

至学館大学

共通テストプラス入試

国語 出題意図

第1問 * 論説文の読解能力を問う。(内田樹著『だからあれほど言ったのに』)

問1 語の意味を捉えて文意に応じた漢字を選択する問題。文の意味を捉えるとともに一語一語の意味に注する学習が求められる。

問2・5 傍線部分の説明として最も適当なものを選択する問題。

文章の内容を的確に読み取り、選択肢の文を読み分ける力が求められる。問2は、本文の「目を見開いて相まみえるべし」に関する部分を的確に読み取ることで適当な選択肢を選ぶことは平易な問題。問4は、「子どもたちが無知に居着く」について論じられている子どもと情報の関係を的確に捉えることで解答できる。

問3・6 文脈に適する語を選択する問題。

問3では、本文にある「学ぶ人間は三日会わないと別人になっている」、「三日で別人になる」に着目して読むことで適当な選択肢を解答できる。

問6では、空欄に続く「自分がその中に棲みつき、そこに安住してきた『家』から出ることである。」の文脈から答えることは難しくない。

問4 理解している語を適切に表現することを求める問題。

問7 日常的に使われる語句の意味を捉え、適当に言い換える語句を選択する問題。

問8 文脈を捉えて、適当な接続語を選択する問題。本文では因果関係が明らかな内容であるので解答は容易である。

問9 文章における主張や論拠など情報と情報との関係を的確に理解できるかを捉える選択肢の問題。文章表現を丁寧に読み取ることで解答は難しくない。

第2問 * 評論文の読解能力を問う(中野信子「空気を読む脳」)

問1は、接続語を補充することで、段落間および文間の論理関係(対比・転換・補足・問いかけ)の理解力を問う問題。

問2は、カタカナを漢字に変換するにあたり、音読的理解でなく文脈から意味を確定し、同音異字の中から正しく漢字を識別できるかを問う問題。

問3は、語句・慣用表現に関する知識、正しい使用について問う問題。

問4,6,8は、筆者の主張や論理展開を正確に把握し、その根拠、因果関係、対比構造などを読み取る力を問う問題。

問7は、本文に正しく一文を挿入することで、論理の展開や文章の構造に対する理解を問う問題

第3問 * 慣用句の知識を問う。

日本社会のコミュニケーションにおいて使用される慣用句の知識を問う。社会生活で使われる言葉や慣用句に対する意識を高くしてほしい。